

〈子どもが伸びる時〉

昨日の園児たちとの山遊びの際、一人の園児（年少）が変わりゆく姿をまじまじと見せてもらった。この日はいつものように前半は“おやまたんけん”にでかけ、その後は自由遊びとした。崖のぼりを選んだAちゃん、他の子に混じってかなりな急斜面に挑戦するがうまく登れない。雨上がりで足元が滑ると、手掛かりになるようなものがほとんどないので悪戦苦闘。腹ばい状態で何度も滑り落ちる。他の子はどんどん登りみんな山の上、Aちゃん1人が取り残される。「ここは難しいから他の場所で登って見たら？」とアドバイスするが、「いやだ！絶対ここ登る。柱になる修行だから！」ときかない。そのくせ、「のぼれない、のぼれない」と半べそかきつつ、それでも止めようとしなない。そのうち、木の根やわずかに生えている笹につかまりながら、少しずつ上に移動できるまでになった。山頂まで2mほど、あと少しだ。そして、ついにお山のとっぺんにたどり着いた。最後まで自力で登り切ったAちゃんの誇らしい顔！生まれてまだ3年か4年、Aちゃんにとって今までに一番の大冒険だったかもしれない。その後Aちゃんはまた同じ場所を登った。今度はいとも簡単に山頂へ！そして、まだ登ったことがない他の斜面にも次々に挑戦し、難なく登ってしまった。山頂でのAちゃんの顔はもうクシャクシャ！一部始終を見ていたこっちも、嬉しくて思わず「Aちゃんスゴイスゴイ！お山の柱になれたね」と祝福した。わずか10分程度の時間、崖のぼりの技術を習得したAちゃんだがそれ以上に、頑張る力、やり抜く力、我慢する力がつき大きな自信につながったに違いない。



〈ピンクのズボンがAちゃん〉



幼児教育には“水の時代”や“土の時代”が大切だと言われる。飽くことなく水や土と遊ぶことで、ヒトが人になっていく基礎を培う時でもある。タケノコが伸びるようにわずかな時間に“スッ”と成長したAちゃん、そんな貴重な現場に立ち会えた幸運になぜか胸が熱くなる。自分の力で勝ち取ったこの自信はこれからのAちゃんにとって大きな財産になるに違いない。園児にとっては冒険心をくすぐる崖登り遊びだが、それ以上に大きな意味を含んでいる。